小学校

6 年

よりよい表現を用いて短歌を作ろう

泉大津市立上條小学校

教科	国語	単元名	たのしみは

本時のねらい

「たのしみ」がよりよく伝わるように、表現を工夫できるようになる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・表現に対する感じ方や考え方は児童によって様々であるが、タブレット端末を活用して、それらを可視化することにより、曖昧な自分の考えをはっきりさせることができるとともに、他の児童との共有でも相手に伝えやすくなる。
・ロイロノートの共有機能を活用し、一つのノートを複数の児童が同時に編集することで、効率よくアドバイスをし合うことができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・ロイロノート　　・シンキングツール

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 （10 分）	・前時でシンキングツールを使って考えた短歌の材料を振り返る。 ・本時のめあてを確認する。 「たのしみが伝わる短歌を考えよう」 ・短歌のルールを再確認する。 ・作った短歌を改善するポイントを全体で確認する。 ※より良い表現に変える、順番を入れ替える 直接的な表現を控える 【写真 1】	・シンキングツールを使ってアイデアを整理しておくことで、短歌作りをスムーズに行える。 ・黒板に短歌を例示し、良いところを考えさせる。
展開 （30 分）	・考えておいた短歌の材料をもとに、短歌作りをする。 ・作った短歌を班で共有し、お互いアドバイスをし合いながら短歌を改善していく。 【写真 2】	・テンプレートを配付し、そこに書き込むことで後の班活動をスムーズに行えるようにする。 ・5・7・5・7・7 の 1 句ごとにカードを分けておくことで、並べ替えをすぐにできるように準備しておく。
まとめ （5 分）	・どのようなアドバイスをし合ったか紹介する。 ・次回の授業で清書することを確認する。 【写真 3】	・他のグループで出たアドバイスも参考にさせる。 ・次の授業までに、よりよい表現となるよう家庭学習でも見直しをさせる。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子

【写真 1】例示された短歌をもとに、改善点を全体で出し合っている場面

【写真 2】グループで改善点をアドバイスし合う場面

【写真 3】次回の授業で行うことを確認する場面

児童生徒の反応や変容

・グループで効率よくアドバイスし合えることで、発想の広がりが見られた。
・友だちの短歌をもとに工夫できるポイントを探すことで、自分の短歌をよりよくするためのヒントになっていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・端末を使ってテキストを並べ替えられるようにすることで、言葉を変えたり、順序を入れ替えたりして短歌を見直すことが容易になる。
・「複製」の機能を活用することで、話し合い活動の前後で、短歌がどのように工夫され見直されたのかが比べやすい。